

愛嬌たっぷりの ロボ・ザウルス 瑞穂区、江村さん陶展



恐竜とロボットを融合した陶のオブジェ
を出展した江村さん。瑞穂区汐路町1で

日本福祉大教育・心理学
部教授で陶芸家の江村和彦
さん(左)は「阿久比町」の陶
展「ROBO-SAURUS
S(ロボ・ザウルス)Ⅱ」
が、瑞穂区汐路町1のギャ
ラリーAPAで開かれてい
る。恐竜とロボットを融合
した愛らしい陶のオブジェ
が並ぶ。二十六日まで。

展示はロボ・ザウルスな
どのオブジェ二十三点と、
絵付けしたマグカップ、恐
竜をモチーフにしたミニ植
木鉢など約百点。ロボ・ザ
ウルスのモデルの恐竜は、
ティラノサウルスやトリケ
ラトプス、ステゴサウルス
など十種類に上る。

ろくろ成形やひも作りの
技法で胴体や足の部分を形
作り、体の表面には鋼鉄を
つなぐビス痕を模した刻印
が随所に。体はややずんぐ
り形にデフォルメされてい
て愛嬌たっぷりだ。

「最近、陶芸雑誌より
恐竜関係の図鑑の方が買っ
ている冊数が多い」と江村
さん。恐竜研究の最新の知
見を、造形の中に取り込む
よう心掛けているという。
「ロボ・ザウルスは土偶や
地蔵のようなイメージを投
影して制作している。見て
楽しんでもらうとともに、
自身にとっても難しい造形
に取り組める挑みがいのある
モチーフ」と話す。

午前十一時～午後六時
で、二十六日は午後五時ま
で。
(小島哲男)